

## IV 平成 26 年度の主要な事業動向

### 1 来館者サービスの状況

#### (1) 入館者、貸出、レファレンスサービス等の状況

26 年度の総入館者数は 607,148 人で、前年度に比べ 1.3%減少した。1 日平均の入場者数は 2,153 人となる。減少幅は少なかったが、21 年度から 6 年連続で減少している。

26 年 4 月から開始した郵便による利用カード発行には、400 名の申込みがあった。

資料の個人貸出点数(図書、AV 資料)は、520,611 冊・点で前年度より 2.5%減少した。1 日平均では 1,846 冊・点で、前年度より 3.2%の減少である。このうち AV 資料の貸出 80,418 点は前年度貸出の 81,077 点とほぼ同程度であった。

レファレンス件数も 37,733 件で昨年度 37,981 件とほぼ同程度であった。

貸出中資料の予約は 29,694 件で、前年度より 2.9%増加した。このうち利用者自身によるオンライン予約は 20,719 件で、前年度より 11.8%増加し、予約件数全体の約 7 割を占めている。

#### (2) 児童に対するサービス

児童図書の貸出冊数は、前年度比 99.4%の 86,451 冊であった。

子ども向けに児童図書室の利用案内やイベントの紹介を行う「こどものページ」を、図書館ホームページ内に 27 年 3 月に開設した。

テーマ展示では、「北欧」「ことばあそび」「ともだち」など 2 か月ごとにテーマを変えて関連図書の展示と貸出を行った。また夏休みには自由研究や読書感想文に役立つおすすめ本を小学校低学年・中学年・高学年に区分して別置き、よく利用された。

発行物では、新着図書を紹介する『新しく入った本』(月刊)、おすすめ本を紹介する『じどうしつだより えほん』『児童室だより ものがたり・ちしきの本』(季刊)を発行した。

おはなし会は、午前を幼児向け、午後を小学生向けとして、年間 22 日 44 回行った。これとは別に、8 月 5 日、6 日及び 12 月 25 日におたのしみ会を、1 月 24 日には「大人も楽しめるおはなし会」を行った。

#### (3) 障害者に対するサービス

26 年度に作成した録音図書 DAISY (デイジー) の数は 29 タイトルで、そのうち既蔵テープからデータ変換したものは 14 タイトルであった。

視覚障害者への対面朗読は、利用者数が延べ 293 人(前年度比 145.0%)、対応した朗読者数が延べ 219 人(同 138.6%)、朗読時間数が 418 時間 30 分(同 139.0%)であった。

視覚障害者資料の貸出数は、自館資料は 1,150 タイトル(同 119.0%)と増加し、他施設の資料を提供した数はダウンロード 277 タイトルを含め 4,752 タイトル(同 85.8%)あった。また、自館資料の他施設への貸出も 597 タイトル(同 93.3%)あった。更に、当館が加入している視覚障害者等への情報提供ネットワークシステム「サピエ」には、点字・録音図書の施設間相互貸借のための書誌データベースのほか、一種の電子図書館の機能もあることから、利用者個人の直接利用もサポートしており、26 年度は新たに 2 人が登録した。

心身障害者への郵送貸出の数は、779 点(同 87.9%)であった。

#### (4) 各コーナーの状況

##### ア 地域資料

愛知県の人・事物について書かれた資料、県内行政刊行物、その他愛知県に関する資料の幅広い収集をめざし、26 年度末現在、地域資料として図書 73,649 冊、雑誌 1,303 タイトルを所蔵している。そのうち 3 階の地域資料のエリアには図書 35,551 冊を配架している。

##### イ ティーンズ

ティーンズコーナーでは、利用者からおすすめ本の POP を募集する企画「てこぼん」で、投票により優秀作を選ぶ「第 3 回てこぼん大賞」を 7 月から 9 月にかけて実施した。

##### ウ 多文化サービス

18 年 3 月に本格運用を開始した多文化サービスコーナーには、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語の図書を備えており、26 年度末の蔵書は約 4,800 冊で、特に文学や日本語学習用の図書など安定した利用が続いている。

## エ ビジネス情報

26年度は、「職業・資格の本」「あいちの起業家応援フェア」の2つの資料展示を開催した。いずれも毎年恒例となっているものであるが、期間中の貸出冊数も多く、利用者からも好評であった。館内整理休館中に、コーナーにおける配架のカテゴリーの一部を変更し、図書の配置をよりわかりやすくした。

## オ 国連資料

22年度に国連寄託図書館の指定が解除となった後も、それまでに寄託を受けた国連資料は引き続き利用に供してきたが、年鑑や統計など一部の参考図書類と雑誌を除き、27年2月25日をもって提供を終了した。

## 2 図書館サポーター

26年度に「おはなし会サポーター」として登録した方は16名で、毎月第1日曜日と第3土曜日に絵本の読みきかせや紙芝居、ストーリーテリングなどの実演を行った。また1月24日の「大人も楽しめるおはなし会」でも協力を得た。

破損・汚損した図書の補修を行う「資料補修サポーター」には、2名の方を登録した。補修作業の習熟度により、できる範囲での補修作業にあたった。

## 3 図書館内の催し物

図書館を知ってもらう活動として、企画展示・講演会等の開催に意欲的に取り組んだ。資料の展示を大小合わせて29件企画し、関連する講演会・上映会・パネル展示等のイベントを13件開催した。

図書館以外の様々な人々や団体、機関との連携は、従来の図書館利用者以外の方々に来館してもらう良い機会となるため、外部へ積極的に働きかけた結果、13件の企画を共催や協力事業として開催することができた。中でも名古屋大学と連携した「サイエンスセミナー（全4回）」（参加者延べ268名）や県教育委員会と連携した公開講座「図書館の下の江戸時代」（参加者107名）は、連携先のホームページや配布物でもPRされ、通常のイベントより多くの参加者があった。

図書館の使い方を解説する「図書館利用講座」は、小学生向けと一般向けを開催し、延べ32名の参加者があった。図書館のバックヤードを紹介する「図書館探検ツアー」は、小学生向けと一般向けに分けて計4回開催し、延べ65名の参加者があった。また、小学生向けの「としょかんの『おしごと』をやってみよう！」を初めて開催したところ、8名の参加者があった。

毎月第3日曜日に開催していた名画鑑賞会を、25年度から混雑の緩和と平日にしか来館できない人にも便宜を図ることとして、同一作品を日曜日と木曜日に上映するようにしたところ、現在では木曜日の入場者の方が多い状態で好評である。

また、同様の活動として、小中高生の見学や体験学習を始め、司書課程の学生の実習など、32件194人を受け入れた。

## 4 県内図書館の動向

27年4月1日現在の愛知県内の市町村は54、図書館設置市町村は48（38市9町1村）、未設置市町村は6（5町1村）、図書館設置率は88.8%である。県内で図書館業務に指定管理者制度を導入しているのは13館（施設管理のみ導入は愛知県図書館始め2館）である。

## 5 市町村立図書館等を介したサービスの状況

### (1) 協力貸出、市町村立図書館間の相互貸借

26年度の県内図書館等への協力貸出数は、図書16,460冊（前年度比96.0%）、CDなどの録音資料1,853点（前年度比121.0%）の合計18,313冊・点であった。県内市町村及び東海・北陸ブロック域内の各図書館同士の相互貸借図書のうち、愛知県図書館を経由して運ばれた数は、41,102冊で前年度とほぼ同数であった。なお、26年10月末より福井県立図書館との定期搬送便の試行を開始した。

## (2) 遠隔地返却制度

愛知県図書館で借りた資料を地元の図書館で返却できる遠隔地返却制度は、24年度から本実施している。対象自治体は、東三河地区（豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村）、西三河地区（岡崎市、碧南市、西尾市、高浜市、幸田町）、知多地区（半田市、常滑市、南知多町、美浜町、武豊町）の18市町村で、26年度の利用は2,457冊・点（前年度比97.7%）であった。

## (3) 市町村立図書館への支援

「あいちラストワン・プロジェクト」は、資料を県内の図書館が協同して保存していくための事業である。県内で1図書館のみが所蔵する資料を希少資料と定義し、資料が将来にわたって確実に保存され利用できるよう取り組むことになった。25年1月に試行を開始し、26年10月に「愛知県内公立図書館等所蔵希少資料保存要綱」に基づき本実施に移行した。27年3月末までに39市町村の40館と県図書館の計41館が参加し、市町村立図書館において保存が困難とされた427冊の希少資料が愛知県図書館に移管された。

市町村立図書館支援の一環として、職員を研修講師として派遣した。26年度は、県内で実施された図書館や団体が主催する研修会等へ20名（前年度13名）を講師として派遣したほか、市町村立図書館との情報交換のため延べ27名（同29名）の職員を派遣した。

## 6 大学図書館、学校図書館との連携

名古屋大学、名古屋市立大学、南山大学の図書館と愛知県図書館の間で、18年5月から開始した定期搬送便の実証実験は、25年度に終了した。26年度からは、継続を希望した名古屋大学と名古屋市立大学の図書館との間で運行したところ、公立図書館から大学図書館への貸出251冊（前年度比50.6%）、借受159冊（同62.4%）で、前年度を大きく下回った。

また、東海地区図書館協議会の「資料相互利用協定」参加の大学図書館との間で318冊の資料を貸出し、52冊の資料を借り受けた。文献複写は、受付、依頼ともなかった。

高等学校を中心に、学校図書館への支援サービスを引き続き実施した。高等学校及び特別支援学校への協力貸出数は12校569冊（前年度比134.8%）であった。

## 7 県内図書館団体等の動向

### (1) 愛知県公立図書館長協議会

#### ア ヤングアダルトサービス連絡会

26年度総会を9月26日に開催した。ヤングアダルト向けのブックガイド『ティーンのためのAichi Librarians' Choice A・L・Cあるく』2号を作成し、愛知県図書館のホームページでも公開している。

#### イ 図書館ネットワーク研究会

26年度は、「あいちサイエンスフェスティバル（名古屋大学主催）と連携した「おどろき・発見・サイエンス！」と、ESDユネスコ世界会議開催にあわせて「ESDってなに？」を共通テーマとしたイベント「@（アット）ライブラリー」を行った。愛知県図書館のホームページに特設ページを設け、参加館のイベント情報を掲載した。サイエンスには15館、ESDには10館が参加した。

また、県内公共図書館の施設・設備を一元的にまとめて見られるホームページの研究を行った。

#### ウ 研修会

第1回「まちに生きる図書館」講師：巽照子氏（参加者：75人）

第2回「児童サービスの見取り図」講師：杉山きく子氏（参加者：106人）

第3回「図書館における高齢者サービスの意義と課題」講師：堀薫夫氏（参加者：61人）

第4回「図書館が好きだから、応援して20年」講師：押樋良樹氏（参加者：45人）

### (2) 愛知図書館協会

愛知図書館協会では、原則として連続受講形式の研修を行っており、講義と演習の組み合わせを原則としている。26年度に実施した研修は次のとおりである。

・児童サービス研修：全4回の連続受講形式とステップアップ（ブックトーク）。

うち「児童サービスの見取り図」（講師：杉山きく子氏）を公開講座とした。（参加者：106人）

・レファレンスサービス研修：全3回の連続受講形式。

- ・ソーシャルメディア研修：「ソーシャルメディアによるコミュニケーションのススメ」（講師：井上昌彦氏）を公開講座とした。（参加者：54人）
- ・資料保存研修：資料保存について実習と講義を組み合わせた研修。
- ・統計研修：愛知淑徳大学の協力を得て、講義と実習を組み合わせた2日間の研修。

## 8 資料の収集

### (1) 図書

26年度は、合計19,521冊の図書を受け入れた。その内訳は、購入による受入が和書15,128冊、洋書81冊、計15,209冊。寄贈による受入が和書4,139冊、洋書73冊、計4,212冊。貸出文庫用図書からの受入が100冊であった。購入による受入は、18年度から21年度にかけての21,000冊程度から、その後は資料購入費の削減に伴って購入冊数が減少しており、26年度は15,209冊にまで減った。予算的に厳しい状況の中で、利用率の低いものなどは精選したが、市町村立図書館及び利用者ニーズの高い資料、県立図書館として必要な資料は積極的に収集を行った。なお、このような購入図書冊数の落ち込みをカバーするため、寄贈図書の受入増加に努めた。

### (2) 新聞雑誌

26年度は、新聞は103紙、雑誌は2,143タイトルを受け入れた。購入雑誌については技術系雑誌や専門誌の継続維持に努めた。地域の新聞として利用が多い『新愛知』の縮刷版を明治21年から大正8年まで受入をし、以後順次購入していく予定である。また、県内の市町村立図書館等に寄贈を呼びかけて、『中央公論』等のバックナンバーを収集した。愛知県内図書館雑誌・新聞総合目録は新システムを用いて県内各館の所蔵状況を容易に検索できるようにした。

### (3) AV資料

26年度は、映像資料ではDVD202点、録音資料ではCD290点を受け入れた。購入・寄贈の別では、購入331点、寄贈161点である。DVDについては、24年度末の館内視聴廃止に伴い除籍したレーザーディスク及びテープ劣化が進むビデオカセットの代替資料の購入を前年度に引き続き進めた。CDについては、幅広い分野からできるだけ満遍なく収集するとともに、劣化が進むカセットテープの代替資料の購入にも留意した。

## 9 インターネットを利用したサービスの状況

### (1) アクセス状況

ホームページのトップページへのアクセス数は1,380,226回で前年度比249.2%、蔵書検索ページのアクセス数は、1,174,132回で前年度比402.6%であった。この大幅な増加は、電算システムの更新により、ホームページのファイル構成やカウント方法が変更されたことと利用できるサービスが増えたためである。

横断検索「愛蔵くん」に参加している施設は、県図書館と県内市町村立の計49図書館、2公民館図書室、2専門図書館であるが、横断検索のアクセス数は609,422回（スマートフォン、携帯からの接続を除く）で前年度比213.3%であった。携帯サイトの総ページビューは58,304ページで前年度比62.5%となり、スマートフォンやタブレット端末の普及により減少が続いている。

### (2) 地域資料のデジタル化の推進

当館が所蔵する貴重な地域資料の電子画像は、「絵図の世界」「絵はがきコレクション」「貴重和本デジタルライブラリー」の3コレクションとしてホームページに掲載し、高精細画像で見ることができる。「貴重和本デジタルライブラリー」については、館内の横断的作業組織である貴重和本整備チームが引き続き書誌データの整備を進めており、26年度は30タイトル分の整備が完了し、計115タイトルを公開している。

## 10 電算システムの運用

### (1) 第4期システムへの更新

26年3月に電算システムを更新し、第4期システムの運用を開始した。新しいシステムには、富士通製の大規模図書館向けパッケージ「iLisfiera（アイリス・フィエラ）」を採用した。これは、クライアント端末以外のサーバ機器を外部のデータセンターに設置するクラウド型シス

テムで、ブラウザ上で動作するウェブアプリケーション型の図書館システムである。クラウド型のシステムとすることにより、セキュリティレベルの高さと災害への強さを確保し、サーバ管理の効率化、電力・空調費用の削減を実現した。

また、ホームページには運用支援サービス Ufinity for public (ユーフィニティ・フォー・パブリック) を採用し、スマートフォンに対応したページを用意するとともに、引き続き携帯電話向けページも運用している。

## (2) 第4期システムの新サービス

電算システムの更新に伴い、利用者が館内OPACやウェブOPACからパスワードを使ってログインする「Myライブラリ」(旧「マイページ」)を充実させた。これまでの貸出中図書予約、利用状況の確認に加え、新しく提供を始めたものには、貸出期間延長機能、興味を持った著者や分類、キーワードなどを登録することで必要とする新着資料情報をメールで受け取ることができる「SDI」(新着資料お知らせサービス)、蔵書検索結果から任意の資料リストをウェブ上に作成できる「My本棚」機能がある。

また、26年4月から、ナクソス・ジャパン社との契約による音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」の提供を開始し、26年度総計で29,903件の利用があった。

## (3) 利用者用インターネット端末の運用改善

所蔵資料からは得られない、文献や各種情報を入手して図書館資料を補完するため、館内にインターネット上のサイトを閲覧できる端末を設置している。

26年2月までは2階に2台、3・4階に各3台と分散して配置して、利用者が各カウンターに申し込む方式であった。電算システム更新を契機に、8台の端末を全て2階新聞・雑誌部門のカウンター前に集約し、新たに用意した利用管理専用端末で図書館利用カードを使って利用者自ら使用端末や時間の予約ができるシステムを導入した。26年度は延べ22,122人の利用があり、前年度より28.0%増加した。

## V 平成26年度来館者アンケート調査結果

愛知県図書館では、来館者の利用行動や評価、要望を知るため、17年度からアンケートを行っており、26年度は、11月9日(日)と11日(火)に1,300枚の用紙を配布し、794人の方から回答を得た。

詳細については、ホームページ(<http://www.aichi-pref-library.jp/>)に掲載している。

### ○来館者について

今年度は60歳代以上の割合が昨年度より3.7ポイント増の33.4%になり、回答者の3人に1人は60歳以上の結果となった。「男性」は引き続き7割を超え、職業は45.7%が「お勤めの方」で、お勤めの中高年男性の利用が多いと考えられる。

来館頻度は、「月1回」以上が84.6%を占め、継続的に利用いただいている方が多い。

実施日	11月9日(日)	11月11日(火)	計
配付数	600	700	1,300
回収数	322	472	794
回収率	53.7%	67.4%	61.1%
入館者数	2,059人	1,997人	4,056人

### ○サービスの重要度と満足度 \*4段階評価(中心値は2.5)

例年、最も重要度が高い「本や雑誌などの量、種類」は3.46(昨年度3.45)であるが、満足度は昨年の3.19から3.11と大幅に下がり、この項目の重要度と満足度の差が広がった。この結果は、「全体的な満足度」の下降(昨年度3.25から今年度は3.22)にも影響している。

### ○県図書館の充実・強化について

県図書館として充実・強化した方が良いと思われるものとして最も多くの方(62.3%)が選んだ回答は「資料の量や種類」であった。市町村図書館支援の項目でも「幅広い資料の収集」(61.7%)が1番にあがっており、資料の提供に関する関心が高い。